※令和４年度以降入学生用

学校番号	２２０１

令和８年度　商業科

教科	商業	科目	ビジネス法規	単位数	2	年次	２～４
使用教科書	「ビジネス法規」（実教出版）						
副教材等	「ビジネス法規　準拠問題集」（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日々暮らしている社会生活の中で偶発的に起きる様々なトラブルが、いかなる法規によって解決されているのかを学んでほしい。ある問題事象が起きたとき、我々は昔からの社会規範・慣習・道徳などで問題解決を試みる。しかし、それでも解決できないときは、さまざまな法律によって解決へと落とし込むのである。日常生活のトラブルを解決する法律として民法を中心に学び、具体例を自分の身に置き換えて考え理解し、今後に活かすことができる学習にしてほしい。

2　学習の到達目標

①ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得させ、経済社会における法の意義や役割について理解させる。
②具体的な経済事象を法律的に考え、適切に判断して行動する能力と態度を育てる。
③遵法精神を基盤として、適切に判断して行動する実践的な能力と態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	民法・商法・会社法などのビジネスに必要な法規に関する知識を習得し，法の意義や役割について理解できているか。具体的な事例に法律の条文をあてはめ，法律的な考察をふまえて適切な結論を導き出すことができるか。	具体的な経済事象を法律的に考察し，企業の経営活動に関する課題を発見し，適切に判断できるか。	「ビジネス法規」の内容に関心をもち，その知識と技術の習得に意欲的に取り組んでいるか。活動を行う実践的な態度を身につけようとしているか。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

単元		学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期(後期)プレ中間	第1章 法の概要	1. 社会規範 2. 社会環境など社会の変化と法 3. 法の体系と分類 4. 法の適用と解釈	a. 社会生活における社会規範や法の適用と解釈について理解している。強行法規と任意法規の違いについて，売買契約を例にとって説明できる。 b. 公法と私法の違いについて，適切に意見を述べることができる。 c. 社会生活にはルールが必要になることについて，意欲的に学習しようとしている。	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・板書ノート ・授業中での発言等 ・授業テーマに関する発言
前期(後期)プレ中間	第2章 権利・義務と財産権	1. 権利と義務 2. 権利・義務の主体 3. 自然人の権利能力 4. 自然人の行為能力と制限行為能力者制度 5. 法人	a. 権利と義務の関係について，理解している。売買取引を例にとって，債権と債務の関係を説明できる。 b. 自然人の権利能力の始期と終期を定めた理由を考察し，適切に発表できる。 c. 権利と義務の関係について，意欲的に学習に取り組んでいる。	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・板書ノート ・授業中での発言等 ・授業テーマに関する発言
前期(後期)中間		1. 物 2. 財産権とその種類	a. 物権の意義について理解し，物権の種類について，知識を有している。相隣関係の規定が民法に設けられた趣旨について，適正に説明できる。 b. 物を主物と従物に分類することで，どのようなメリットがあるのかを判断し，適切な意見を発表できる。 c. 物権について意欲的に学習に取り組み，主物や従物を身の周りの物に応用して，あてはめようとしている。	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・板書ノート ・授業中での発言等 ・授業テーマに関する発言
前期(後期)プレ期末		1. 知的財産権と保護 2. 知的財産権の特徴と種類 3. 産業に関する知的財産権 4. デザインやマークに関する知的財産権 5. 著作物に関する知的財産権 6. 知的財産権の重要性と保護	a. 知的財産権の意味や種類について理解し、著作権や特許権、実用新案権など各権利ごとに内容と存続期間、出願・審査制度または権利の性質について説明することができる。 b. 一つの創作に対して複数の知的財産が成立する可能性について判断し、活用について多角的考察ができる。 c. 知的財産権について興味を持ち，侵害された時の対抗手段や保護について積極的に学ぼうとする。	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・板書ノート ・授業中での発言等 ・授業テーマに関する発言
前期(後期)プレ期末	第3章 財産権の変動	1. 取引と契約 2. 契約の一般原則 3. 契約と意思表示 4. 契約の分類	a. 契約の成立について，正確な知識を有し、実際の各種の契約について，双務契約か片務契約か，有償契約か無償契約かを判断できる。 b.「金銭の借り入れ」がどちらに相当するのか判断できる。 c. 消費貸借や使用貸借などについて，日常生活の具体例と関連させて理解しようとしている。	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・板書ノート ・授業中での発言等 ・授業テーマに関する発言
前期(後期)期末		1. 売買 2. 不動産の売買 3. 動産の売買 4. 債権の売買 5. 売買契約当事者の権利・義務	a. 売買が人生の喜びや悲しみに直結する事象たりうることの法律的裏付けを知識として持ちえたか。売買契約を瑕疵なく締結し履行するための「世間知」が自分のものとなっているか。 b. 所有権移転の時期や対抗要件のこと、売買のビジネス経済的意味の相関について的確な思考判断ができたか。 c. 売買の実行行為に伴う法の存在を経済活動の視点から理解したか。	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・板書ノート ・授業中での発言等 ・授業テーマに関する発言
		1. 消費貸借 2. 賃貸借 3. 宅地の貸借 4. 建物の貸借 5. 使用貸借	a. 貸借わけても金銭貸借について将来の生活設計とのかかわりから的確に知識として理解し体得できたか。物の貸借が一般に有償であること、金銭の貸借については法定利息の場合もあることの理解が身にしみているか。 b. 宅地の貸借など特別法はなぜ作られたか、その立法の趣旨を判断できるか。 c. 貸借の種々相とそれに伴う「社会的相互作用」を法律的にどう心得るべきか。	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・板書ノート ・授業中での発言等 ・授業テーマに関する発言
		1. 一般的な不法行為とその展開 2. 特殊な不法行為	a. 債務不履行の３つの種類について知識を有し，責任の態様を理解している。債務履行３つの種類について，債権者の保護手段を含め適切に説明できる。 b. 債務者が債務を完全に履行しない場合の責任と瑕疵担保責任との違いを理解し，その違いを論理的に説明できる。 c. 瑕疵担保責任と債務不履行責任を対比させ，意欲的に学習しようとしている。	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・小テスト ・課題プリント ・問題集 ・定期考査	・板書ノート ・授業中での発言等 ・授業テーマに関する発言

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度